

会誌編集委員会女子部拡大版
オランダ滞在記

Number
29

女性研究者の単身子連れ 在外研究のあれこれ

坊農真弓(国立情報学研究所)

私は今、5歳になる娘と2人でオランダで暮らしています。昨年(2015年)から公募が開始された科研費の国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)に採択され、1年間ドイツにほど近いオランダ南部のナイメーヘンにあるマックスプランク心理言語学研究所で研究活動をするようになったのです。マックスプランク心理言語学研究所は、ドイツのマックスプランクソサエティの傘下で、ELANという言語研究や相互行為研究のためのアノテーションソフトウェアを開発していることで有名です。この研究所は、鳥のさえずりや木々の葉音が耳に優しい森の中にあります。そこで私は、自分専用の居室とコンピュータを与えられています。

男性研究者が家族全員を連れて在外研究に行くのはよく聞く話です。研究者夫婦がいろいろと調整して同時にサバティカルリープ(研究休暇)を取得して家族全員で在外研究に行ったという話も聞いたことがあります。私の場合、夫も研究者ですが、同時にサバティカルリープを取ることができませんでした。そこで私たちは、夫は日本に残り、私が1人で娘を世話しながら在外研究をするという選択をしました。この選択を私たちは「単身子連れ在外研究」と呼んでいます。

採択通知をいただいたのが今年(2016年)の2月初旬でした。そして同年4月末にはオランダ生活を開始しました。採択通知からオランダ引越しまでおよそ2カ月半、娘の保育園への連絡、習いごとをやめる手続き、予防接種の証明書取得、家探し、車探し、娘の学校探し、旅行保険加入などたくさんの

手続きを一気に進めました。でも一番大変だったのが、娘への説明と説得でした。5歳といえば日本では幼稚園の年長です。0歳から保育園に5年間通っていた娘は、当然年長も同じ保育園で過ごし、お友だちと卒園すると思っていた。またうちの場合、娘が2歳の頃まで、夫は関西の大学、私は東京の研究所勤務だったので、遠距離家族の経験はありません。しかし、その頃の記憶は娘にはほとんどありません。これまで私たちは夫と私で半々の育児をしてきたので、いきなり夫と離れて暮らすのは娘にとってとても想像がしにくいものでした。そして娘のみならず、私も本当にできるのかと不安になりながら、渡航の準備を進めました。

私たちがオランダ渡航日に選んだのは、年に1度オランダがオレンジに染まる「国王の日」でした。国中がお祭りムードに包まれる中、大きなトランクを抱えてオランダに入国しました。オランダは入国してからビザを取得します(一方、アメリカは入国前にビザを取ります)。オランダはほかのヨーロッパの国に比べると英語がよく通じる国です。近所のパン屋でもこちらが外国人と分かればすぐに流暢な英語で話しかけてくれます。しかし、オランダで暮らすとなると、公的な書類やいろいろな手続きはオランダ語で進めないといけません。市役所や移民局はすべてオランダ語で、Google翻訳を片手に1つ1つ検索して書類を準備しました。

最近のGoogle翻訳は、プリントされた書類にアプリを起動したiphoneをかざすと、ターゲットとなる言語テキスト(ここではオランダ語)を見つ

け、目的の言語に翻訳してくれます。情報学の研究所にしながら、この技術発展はアパートの大家さんに教えてもらいました。プリントアウトされたアパートの契約書の文言を1つ1つ手打ちでGoogle翻訳に入力していた私に、さらっと教えてくれたのです。図-1の写真はGoogle翻訳の画面です。

調べてみるとGoogleは2014年5月に仮想現実翻訳アプリ「Word Lens Translator」の開発元である米Quest Visualを買収したらしく、2015年初頭からこの技術はGoogle翻訳に搭載されています。

オランダの市役所から送られてくる文書や保健所から送られてくる娘の5,6歳検診のアンケートもこのGoogle翻訳で読んでいます。このアプリのおかげで娘の健康も維持できていると思うと、情報処理技術がいかに私たちの生活を支えてくれているのかを実感できます。日本国内にいと、私たちの母語である日本語に取り囲まれ、何の不自由も感じません。しかし、いったん海外に出てみると言語の壁をひしひしと感じます。2020年の東京オリンピックまでにはいろいろな技術革新が進むのではないかと思います。日本語はアルファベットを使わない言語なので、上記のような翻訳アプリの開発は困難を極めるかと思えます。しかし、だからこそ日本らしい技術が必要になってくるのではないのでしょうか。

この原稿を書いている9月時点で、オランダ生活が始まって5カ月が経ちました。最初の2カ月はビザ取得やその他もろもろの処理に追われ、過ぎていった印象です。あと7カ月程度の滞在ですが、エンジン全開になってきたので、ここから巻き返しを図っていこうと思っています。

最後に、私の研究についても少し触れたいと思います。オランダではこちらの研究者とともに手話の

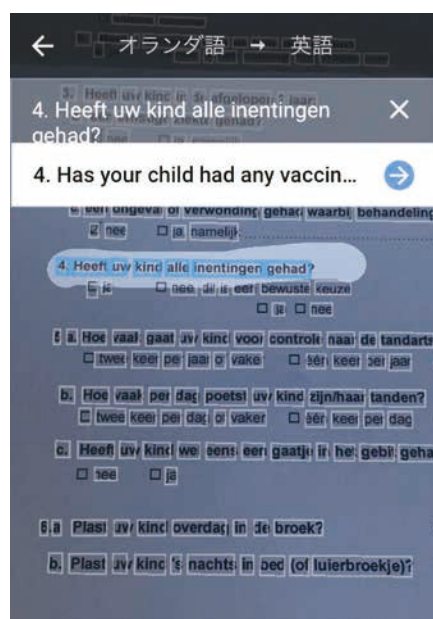
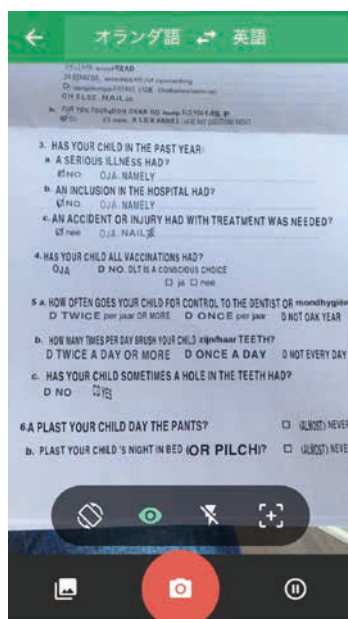


図-1 iPhoneでGoogle翻訳アプリを起動してプリントされた文章にかざすと翻訳してくれる(左). 同アプリで写真を撮り、指で翻訳したい文章をなぞると翻訳してくれる(右)

コミュニケーションについて研究を進めています。手話には書き言葉がありません。従来、数学も言語学も紙に現象を書き出すことから科学的な研究が始まっています。たとえば、アメリカのインディアンが話していた言葉は、現地に赴いた研究者がそれらを詳細に書きとめることで観察・議論することが可能になりました。これらの資料は、アメリカ構造主義言語学の礎となっています。では手話はどうでしょうか。手話は世界共通ではありません。日本には日本手話があり、アメリカにはアメリカ手話があります。また、イギリスにはイギリス手話がありますが、同じ英語を公用語とするアメリカで用いられるアメリカ手話とはまったく異なる言語です。つまり、手話は音声言語を土台に作られたものではなく、独自の言語体系を持つ独立した言語なのです。手話を話す人々は手話に書き言葉がないために、文字を用いるためにはその国の書き言葉を利用するバイリンガル状況にあります(例:日本の手話を話す人々は、話し言葉として日本手話を使い、書き言葉として日本語を使っています)。研究者が手話を書きとめようと思ったとき、どうしてもその国の書き言葉を使うことになりがちです。そうすると、書きとめられ

た資料は翻訳された資料となってしまう、生の手話表現の豊かさが抜け落ちてしまいます。私はこれまでジェスチャ研究やマルチモーダルインタラクション研究を専門としてきました。その知識と経験を用い、手話コミュニケーションの豊かさを記述する枠組みを構築しようとしています。

日本で育児を分担していた夫と1年間離れ離れになり、海外で親子2人暮らしをするのは非常に困難を極めます。でもそんなとき、娘の一言が私たちに幸せを運んでくれます。

以下はオランダ引越し前のやりとりです。
私「オランダに引っ越したら、『パパに会いたい』『パパがいい』ってなっても、すぐには会えないんだけど、大丈夫？」

娘「(なにか考えながら) うーん……」

私「寂しくならない？ ママ、寂しいかもな～」

娘「ママには○○(娘の名前)ちゃんがいるじゃん！」

娘の出産前にもアメリカに約1年留学しましたが、そのときとは明らかに毎日の輝きが違います。応援してくれている娘のためにも、良い研究をしようと思っています。

(2016年9月9日受付)



フォロー・
リツイート
お願いします

◎twitter で情報発信中！

情報処理学会ツイッター➡ @IPSJcom

- ソフトウェア工学研究会➡ @IPSJ_SIGSE
- ハイパフォーマンスコンピューティング研究会➡ @HpcCommittee
- ヒューマンコンピュータインタラクション研究会➡ @ipsj_sighci
- 情報基礎とアクセス技術研究会➡ @sigifat
- オーディオビジュアル複合情報処理研究会➡ @ipsj_avm
- モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会➡ @ipsj_sigmbi
- インターネットと運用技術研究会➡ @IPSJ_SIGIOT
- 自然言語処理研究会➡ @ipsj_signl
- コンピュータと教育研究会➡ @ipsjce
- 音楽情報科学研究会➡ @ipsj_sigmus
- エンタテインメントコンピューティング研究会➡ @ipsj_sigec
- バイオ情報学研究会➡ @sigbiojapan



いいね！・
シェア
お願いします

◎Facebook で情報発信中！

情報処理学会ページ www.facebook.com/IPSJcom

- システム・アーキテクチャ研究会 www.facebook.com/groups/ipsj.sigarc/
- システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会 www.facebook.com/groups/ipsj.sigos/
- モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム研究会 www.facebook.com/IPSJ.SIG.MBL
- インターネットと運用技術研究会 www.facebook.com/ipsjiot
- コンシューマ・デバイス&システム研究会 www.facebook.com/sig.cds
- 電子化知的財産・社会基盤研究会 www.facebook.com/eipjp
- 会員の力を社会につなげる研究グループ www.facebook.com/ssr.ipsj